

令和6年度 県立筑波高等学校自己評価表

目指す学校像	「地域に支えられ、地域を支える高校生の育成」を目指し、地方創生に貢献できる人財を輩出する学校	【実践目標】 正しい判断 自主的行動	【育てたい資質能力】人間力 ① 他者とかかわり、協働する力 ② 自他を尊重し、思いやる心 ③ 粘り強くやり遂げる力
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
【成果】 ○ 学習指導 ・ 「つくばサポートタイム」、一般常識ドリル等の取組により、学習意欲の向上と基礎学力の定着が見られた。 ○ 生徒指導 ・ マナー指導に力を入れた結果、服装や授業態度が向上した。 ・ 校内研修で情報交換等を行った結果、個に応じた対応ができた。 ○ 進路指導 ・ 自己の進路実現に必要な情報を積極的に入手する生徒が増えた。 ・ 進路ガイダンスを充実させることにより、主体的に進路選択する資質・能力の向上を図ることができた。 ○ その他 ・ 学校行事を通して、学校やクラスへの帰属意識を高めることができた。特に百人一首大会など伝統行事の意義を共有することができた。 ・ 「つくばね学」を通して、地域や近隣の中学校と連携を深めることができた。 【課題】 ○ 学習指導 ・ 教員の専門性を生かした授業の展開 ○ 生徒指導 ・ 頭髪服装指導の徹底に向けた全教職員による共通理解 ・ 生徒が自らの長所に気付き、伸ばすための働きかけなど、自己肯定感を身に付けるための動機付け ○ 進路指導	I 基礎学力の確実な定着と進路指導の充実	① 学校設定教科としての「つくばサポートタイム (TST)」やティーム・ティーチング、少人数授業の積極的な実施により、基礎学力の定着と学習意欲の向上を図るとともに、就職のための社会人基礎力の向上に努める。 ② 自己の適性理解に向けた進路講演会の開催、「進路の手引き」や関係教材等を活用したLHRを計画的に実施し、進路意識の高揚を図る。	B
	II 生徒指導の充実	① 生徒や保護者に学校の指導方針を伝え、学校と家庭が協力して、基本的生活習慣の確立に努める。 ② 「マナーカード」及び「Shihou カード」を効果的に活用し、生徒の自己管理能力や自己肯定感を高める。 ③ いじめの未然防止、早期発見に努め、組織として迅速に対応する。 ④ 教職員自らが人権意識を身に付け、生徒理解に努め、生徒指導のスキルアップを図る。 ⑤ 特別支援教育に関する理解を深めたり、カウンセリング的な相談スキルを高めたりすることで、生徒の自立を支援する。 ⑥ 学校行事やボランティア等を通して責任感、自立心、忍耐力を養い、自主的に活動するリーダー的人材を育成し、学校の活性化を図る。	A
	III キャリア教育の充実	① 2年生におけるインターンシップ（希望制）や「つくばね学」の実施を基礎に、3年生では「つくばね学」の探究を深める。また、「キャリア・パスポート」の活用をすすめることにより、キャリア教育を一層推進する。 ② 先を見通した体系的な進路指導を行うとともに、保護者へ進路情報を積極的に提供し、進路実現に向けた取り組みへの理解と協力を得る。 ③ 各大学・短大の情報を整理・公開し、進学意識の向上を図る。また、デジタル求人票を活用することで、就職内定率100%を維持できるよう、就職指導を充実する。	B
	IV 地域や異校種との連携	① 地元の風土や自然及び地域の教育力を生かす「つくばね学探究」をさらに充実させ、2年生及び3年生全員による地域や日本国際学園大学と連携した体験的な学習活動を実施し、生徒の「人間力」の向上を目指す。 ② 地域の義務教育学校訪問や筑波大学と連携した百人一首大会等の伝統行事を行うことで、生徒に愛校心や郷土愛を醸成し、地域を担う人材の育成に努める。 ③ 中学校と緊密に情報交換を行うことにより、信頼関係を構築する。 ④ つくば市との連携を積極的に図り、地域に根ざした高校として地域に貢献する。	B

別紙様式 2 (高)

・ 進路選択・決定能力を補うための、 教員・保護者によるサポート体制の構築 ・ 進学指導のあり方の検討 ○ その他 ・ ボランティア活動への参加推奨と、 地域に貢献し、自主的に行動できる人材の育成		V 働き方改革の実現	① 各学年及び各部において、副主任が機能する組織づくりによって組織力を向上させ、働き方改革の実現を目指す。 ② 教育的効果を低減させることなく、会議、打合せ等の業務の精選や実施方法の改善を図る。		B		
		VI 授業の改善	① 電子黒板やタブレット等の積極的活用と学び合いなどを通して、生徒の理解力を高め、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。 ② 教員相互の授業参観や意見交換等を積極的に行い、個々の教員の授業力向上を図り、生徒の学習意欲を喚起する。 ③ 生徒による授業満足度 75%以上を目指す。		A		
三つの方針		具体的目標			評価	次年度（学期）への 主な課題	
育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）		○ 地域社会に目を向け、自己を高めながら社会に貢献できる力 ○ 自己の課題を明確にし、主体的・意欲的に行動する力 ○ 異年齢の社会人と関わり、協働的に粘り強く挑戦する力			A	A 総合的な探究の時間を 中核とした生徒の育成 個に応じたきめ細かな 学習指導の実現 中学校や義務教育学校 とのさらなる連携	
教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）		○ 総合的な探究の時間（つくばね学）を基盤として、地域と連携しながら探究し、主体的に自己の将来を切り拓く学習活動の実践			B		
入学者の受入れに関する方針 （アドミッション・ポリシー）		○ 学びの意義を見出し、日常での生活を前向きに取り組むことのできる生徒 ○ 地域社会の一員として積極的に社会と関わり、自己の将来を見つめながら学校生活を送れる生徒			A		
評価項目	具体的目標		具体的方策			評価	次年度（学期）への 主な課題
教科指導	ICTを活用することにより、基礎学力の向上を図るとともに、主体的に考え解決する能力を育てる。		主体的・対話的で深い学びの実現を目指すという視点から授業改善を行い、「つくばサポートタイム（TST）」、少人数授業やTTの実施等によって、生徒の基礎学力の向上を図る。 I①			A	A ICTの活用を推進することで、主体的に考え解決する力の育成及び基礎学力のさらなる向上を図る。
			個々の教員の専門性を生かした授業を展開することで、生徒の進学意欲を高める。 I②			B	
			生徒にとって分かる授業を目指して、教材や授業展開の工夫に努める。 I②③			A	
教科	国語	基礎学力の向上	ICT機器を活用しながら、生徒たちの学習意欲を喚起し、基礎学力を身に付けさせる。 I①			B	B ・ ICTを活用する技術向上のための教員向け研修会を開催する。 ・ 漢検3級以上の合格者を増やせるよう、漢字の意味まできちんと覚え、漢字力の定着を図る。 ・ 3年間を通した継続的な小論文指導を行い、進学・就職を見据えた指導を行う。
			基礎的な漢字や言葉を繰り返し学習することにより、語彙力を豊かにさせる。 I①			B	
			教科内での話し合いや、研修などでの情報を共有することで、評価方法の見直しや教材の開発・工夫に努める。 I②③				
	進学を見据えた学力の向上	進学希望者に対して、丁寧な授業展開や課外授業、個別指導を実施する。 I②③			B		
	漢字検定の合格率の向上	小テストや演習形式の問題を通して、全体で3級以上30名以上の合格を目指す。 I②			B		
		漢字や語彙を重視した指導を行い、検定合格に対する意識を高め、自学自習の習慣を定着させる。 I②			B		

別紙様式 2 (高)

教科	国語	進路に応じた表現指導を強化	作文や小論文指導を通して、実践的な文章力を身に付けることを目指す。 I ②③	B		・百人一首大会において筑波大学カルタ部や近隣小学校と連携する。 ・古典に対する学習意欲や興味関心を向上させる授業づくりをする。
			自己の考えや他者の意見を的確にまとめ伝える文章力を身に付ける。 I ②③	B		
		古典への興味・関心の向上	I C T機器を活用して古典資料に触れるとともに、古典の基礎的・基本的な知識を身に付けさせる。 I ①②	B		
			百人一首大会を通して、和歌への興味・関心を高め、古典に親しむ態度を養う。 I ①②	B		
	地理歴史	基礎学力の向上	歴史的用語・地理的用語の意味と正しい標記を理解させるために、繰り返し指導を行う。 VI③	A	A	・グループ活動等を取り入れることで、学び合いを実践する。
		思考・判断・表現をさせるための授業改善	I C T機器を効果的に使用し、生徒の思考・判断・表現の一助とする。 VI①	A		
			グループ活動、学び合い、発表、探究等を取り入れた授業を行うことで、積極的な授業参加を促す。 VI③	B		
		地理的・歴史的事象に対する興味・関心の向上	資料・映像等を効果的に使い、地理的・歴史的事象に対する興味・関心を喚起する。 VI③	A		
	公民	基礎学力の定着	現代社会の用語を知り、意味を理解し、正しく標記できるようにする。 VI③	A	B	・I C Tや新聞、インターネットの利用を進め、多面的に公民的事柄を考察できるようにする。
		思考・判断・表現をさせるための授業改善	I C T機器を効果的に使用し、生徒の思考・判断・表現の一助とする。 VI①	B		
			グループ活動、学び合い、発表、探究等を取り入れた授業を行い、生徒の公共心を育む。 VI③	B		
		社会的事象に対する興味・関心の向上	新聞やインターネットを利用し、現代社会の政治や経済に関心をもたせ、主権者意識を高める。 VI③	C		
	数学	履修内容及び基礎学力の確実な定着	T Tを積極的に活用して、理解が進んでいる生徒に対する演習プリントの配付、理解に困難を示している生徒に対する個別指導の実施を着実にを行い、個に応じた学力の向上を図る。 I ①	B	A	・必要に応じてT Tや補習を行い、個に応じた指導を徹底する。 ・進学希望者に対して受験対策を実施し、個の進路に応じた指導を行う。 ・I C Tを活用した授業について教科全体で検討し、実践する。
			授業以外の支援を要する生徒に対して補習を実施し、履修内容の確実な定着を図る。 I ①	A		
			ワークの進捗を各定期テストごとに確認し、授業内外で取り組みを促すことで、既習内容の復習を行う姿勢を育成する。 I ①	A		
			「つくばサポートタイム (T S T)」で複数の教員が細やかな指導を行うことで、基礎学力の確実な定着を図る。 I ①	A		
		個の進路希望に即した学習指導	進学希望の生徒には課外授業や補習による受験対策を実施することで、個の進路希望に即した学習指導を実現する。 I ②	A		
		授業の工夫改善	教科内で授業参観を各授業1回以上実施し、板書や発問、授業形式、I C T機器の活用など指導法を検討することで、授業の工夫改善を図る。 VI②	B		

別紙様式 2 (高)

教科	理科	実験や観察の充実	年間6回以上の実験や観察授業を実施し、実験器具の操作技術や探究的な思考力を育む。 I ①	B	A	・実験や観察授業をさらに充実させ、主体的に取り組む態度を養う。 ・タブレットを用いて小テストを実施するなど、生徒の理解度の把握に努める。
		学習意欲の喚起	生徒同士の対話的な学習を通して、自然事物に対する興味関心を高めるとともに、自然科学への学習意欲の向上をめざす。 VI①	A		
			I C T機器の利用を通じて、わかる授業の展開に努めるとともに、授業の改善方法について教科内で意見交換を行う。 I ③	A		
		基礎学力の向上	単元末テストを実施し、生徒の理解度の把握に努めるとともに、その状況に応じた個別指導を行う。 I ②	B		
	保健体育	体力の向上及び規範意識の向上	運動の合理的・計画的な実践を通して、各運動の楽しさや心地よさを味わいながら、体力や運動技能を向上させる。また、服装面の指導を通して規範意識や安全に関する知識を身に付ける。 I ①、II③	A	A	・運動に対して苦手意識をもつ生徒が多いので、得意な運動を見つけて生涯スポーツに繋がるよう意欲を高めていく。 ・生徒が主体的に行動し、課題を発見できる授業を展開する。
		生涯にわたって運動に親しむ資質の向上	各種の運動を仲間と主体的に実践することで、自分の得意な運動種目を見つけるとともに、体育理論を通じて生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力の育成を図る。 I ①	A		
		生涯を通じて自らの健康を管理し、改善していく活力ある人材の育成	生活習慣や交通安全、社会生活と健康等について、知識の定着を図る。また、生涯を通じて自らの健康について考え、適切に管理し改善していく思考力や判断力を育成する。1週間あたり3時間以上運動している人が80%以上になるようにする。 I ①	B		
	芸術	基礎的な知識の定着及び表現・鑑賞の能力の向上	題材の最初と最後に小テストを行い、基礎力の定着の度合いを確認する。 I ①	B	B	・題材の小テストで下位層が伸びるよう、小テストのあり方を検討する。 ・アンケートの結果、音楽、書道とも意欲的に取り組む生徒の割合は70%だった。自己申告以外の方法を検討する。
			生徒の芸術的能力を見極め、個々に応じた指導をする。 I ①	A		
			教員の芸術的資質を高めるために自己研鑽に努める。 I ①	A		
		生涯にわたり芸術を愛好する心情の育成	芸術に対する興味・関心を高め、よさや美しさを味わいながら主体的に活動する態度を育てる。 I ②	B		
			題材の最後のアンケートで、「意欲的に取り組んでいる」生徒の割合を70%以上にする。 I ②	B		
	英語	基礎学力の定着と学習意欲の喚起	単元ごとに小テストを行い、生徒の理解力を定期的に確認する機会をもつ。 I ①	A	A	【アドバンスト／アカ】 ・英検準2級以上の全員合格を目指す。 ・英検2級、準1級の合格者各1名を目指す 【キャリア／ビジネス】 ・日常で使われる英単語の確実な習得を目指す。 ・学習に粘り強く取り組む姿勢を育てる。
			生徒の理解力に応じて、個別指導や放課後の補習・課外を実施する。 I ②	A		
			長期休業中の課題と休業明けの定期テストを組み合わせ、家庭学習の意欲を喚起する。 I ①	A		
		検定に合格できる力の養成	進学希望者には進路に応じた対策を実施し、英検準1級～準2級レベルの英語力を養う。 I ②	B		
			英検対策や単語テストを授業と定期テストで実施し、英検3級に合格できる実力を養う。 I ③	B		
		個の実態に即した授業展開と教材研究	生徒のニーズに即してI C T機器や教材を利用し、授業を行う。 IV①	B		

別紙様式 2 (高)

教科	教		検定の取得や研修会への参加を通し、教員が自己研鑽に努める。	Ⅳ②	A		【全体】 ・タブレットを利活用する。
			A L Tを積極的に活用し、主として生徒のスピーキング、ライティングの力を高める。	I ②	A		
		授業改善に向けた教科内の協議の実施	4技能を統合的に育成する授業と観点別評価のあり方を検討し、実施する。	I ②	A		
			各施策について、教科会で話し合いを持ち、授業改善に努め、授業満足度を高める。	Ⅳ③	B		
	家庭	基礎的・基本的な知識と技術の定着	I C T機器やタブレットを効果的に活用するとともに、プリントやワークシートを工夫する。	I ①	B	B	・引き続き I C Tの効果的な活用に向けた教材研究を行う。 ・生徒の学びを深められるよう、実習内容や実技試験を見直す。
			グループ活動による学び合いや、T Tを活用した個別指導の充実を図る。	I ①	A		
		生活の充実向上を図る能力と実践的態度の育成	実験・実習や体験的活動を数多く取り入れることで、実践的な態度の育成を図る。	I ②	B		
	情報	情報収集と処理する技術の習得	信憑性と真実性を確認した上で、適切な情報を収集し、適格に処理する技術を身につけさせる。	I ③	A	A	・Life is Tech! をさらに活用する。 ・I C Tに関する知識を向上させる。
		情報の有用性との理解と活用能力の向上	情報の種類と情報の有用性についての判断力を身に付けさせるとともに、I Tの活用能力の向上に努める。	I ②	A		
	商業	基礎的知識の習得	ハードウェアとソフトウェアの違いを理解させ、コンピュータの5大機能における役割について学習を進める。	I ①	B	B	・著作権と情報モラル及びセキュリティの重要性について指導する。 ・資格取得について各検定の合格率を高める。
		情報処理能力と商業人としての資質の育成	入手した情報を適切に処理する力を身に付けさせるとともに、著作権、情報モラル及び情報セキュリティについての認識度を高めさせ、商業人としての資質を高める。	I ①	B		
		資格取得の奨励	卒業後の進路を考慮し、上級資格の合格を目指して指導を工夫する。	I ③	B		
教務		生徒の実態を踏まえた教育課程の編成、基礎学力の確実な定着及び個に応じた発展的な学習の展開	指導と評価の一体化に努め、多様な観点からの学習評価に努めるとともに、教師自らの指導を振り返ることができるようにする。	I ①Ⅵ②	A	A	・引き続き指導と評価の一体化に努める。 ・授業における I C Tの効果的な利用を推進する。 ・業務内容の整理と見直しを継続する。
			校内における授業研究や対外的な授業公開を行い、主体的・対話的で深い学びの実現を図るため、指導方法の工夫と改善を通して、相互に授業力を高め合う環境を整える。	Ⅵ①②	A		
			学年会や教科会等、情報交換の場を適切に設けることで生徒の正確な実態把握に努め、生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、進路希望に応じた支援体制を構築する。	Ⅵ①②	A		
			生徒の能力に応じて、習熟度別や少人数、ティーム・ティーチングの授業を行ったり、I C Tを活用した授業を行ったりするなど、生徒の学習意欲の喚起に努める。	I ①、Ⅵ①	B		
			「つくばサポートタイム(T S T)」の実施方法を改善し、学習習慣の確立と基礎学力の定着を図る。	I ①	A		
		校内研修の充実	各種研修会等で得た情報の共有化を図り、最新の教育事情に対する理解を深めるために、計画的に校内研修会を実施する。	Ⅵ②	B		
		事務処理の効率化	I C T機器の効果的な活用及び業務の見直しや改善を通して、事務処理等の効率化を図る。	V ②	A		

別紙様式 2 (高)

	図書館利用の促進	図書館の役割・意義を再認識した上で、書籍の貸出しや読書をする場所のみににとどまらず、生徒の主体的な学習活動の支援及び情報の収集・選択・活用能力の育成の場としての環境づくりを行う。Ⅰ①	B	B	・図書館の利用率向上及び書籍のリクエスト数の増加に努める。 ・放課後の利用率向上を呼びかける。
		生徒が気軽に利用できる場としての環境づくりに努める。Ⅰ①	A		
		作文コンクールや読書会などの開催を通じて、豊かな心と読書に親しむ態度を養う。Ⅰ①	B		
	後援会活動の活性化	後援会役員と学校との連携を密にする。Ⅱ①、Ⅳ④	A	A	・後援会活動の周知及び役員の選任に努める。
		後援会行事の活性化に努め、保護者に対して学校の教育活動について理解を求める。Ⅱ①、Ⅳ④	A		
進路指導	進路実現のためのキャリア教育の円滑な実施	キャリア教育を踏まえ、各学年の目標に応じた行事を円滑に実施するためのサポートを行う。Ⅲ①	B	B	・基礎学力及び家庭学習を定着させるために、「classi」との協働学習を教科や学年と連携して推進する。 ・各学年の進路指導に係る年間指導計画を探究学習と連携させ、SPI対策、面接練習及び作文指導の時間を確保できるよう、学年と連携を図る。 ・進路保護者説明会を5月の後援会総会時に実施することで、保護者の理解を促進する。 ・ラーケーションを活用した大学見学を推進する。
		進路ガイダンスやバス見学会等の実施により、自分の進路を真剣に考える機会を増やす。Ⅲ①	A		
	進路意識の向上と、進路実現に必要な自己力の育成	「進路の手引き」を発行し、生徒に使い方を説明することで、キャリア教育の充実を図る。また、手帳を活用し、自己管理能力や学習の習慣を意識づける。Ⅲ③	B		
		外部講師の講話や大学からの出前授業、先輩の話を聞く会及び「進路指導の手引き」の活用等を通じて、自分の進路を考え、進路意識を高める。Ⅲ①④	B		
		特別な支援を必要とする生徒に対して、特別支援コーディネーター及び外部機関と綿密に連携し、進路実現のための準備を早期から実施する。Ⅲ②	B		
		教員による企業訪問やインターンシップ、企業や上級学校等からの来校者を通じ、情報交換を密にする。特に、本校の取組を具体的に説明するとともに、企業が求める人材にについて情報を共有することで、進路指導に役立て、受け入れ先企業の開拓につなげる。Ⅲ②	A		
	個に応じた進路指導の工夫	安定した求人確保のために、ハローワークを定期的に訪問する。また企業を定期的に訪問し、本校の取組について具体的に説明することで、企業の新規開拓に努める。Ⅲ③	A		
		土曜課外授業、外部模試を実施し、日々の授業改や受験指導の充実を図る。Ⅲ③	B		
		本校生徒の実情に見合った情報収集に努め、発信をする。進路決定率100%を目指し、大学・短大進学者10名以上を目標とする。就職希望者に対しては求人票デジタルシステムを導入し、学校以外で情報を閲覧できるよう使用方法を指導する。Ⅲ③	A		
生徒指導	基本的な生活習慣の確立とマナーやモラルの向上	登校指導や下校指導、昼休みの巡回指導等を計画的に行うとともに、遅刻を減らし、服装や生活面の改善を図る。Ⅱ①	A	B	・事案が発生する前の未然防止措置・指導を全職員があらゆる場面で実践できるようにする。 ・職員の共通理解を図るために、校内研修を充実させる。
		「マナーカード」指導について職員の共通理解と共通実践を図り、職員が一体となって行う生徒指導を推進する。Ⅱ②	B		
	生徒対応、生徒の問題行動、いじめ事案に対する教員のスキルアップ	校内研修等を行うことで、生徒対応や生徒の問題行動、あるいは電話対応についての教員個人のスキルアップを図ることで、組織全体の生徒指導スキルの向上を目指す。Ⅱ⑤	B		
		いじめ事案の対応について職員間で共通理解を図ることで、いじめ事案に対し迅速かつ組織的に対応できるようにし、いじめの防止に努める。Ⅱ③	A		

別紙様式 2 (高)

保 健 厚 生	学校安全の確保	基本的な感染症対策を継続するとともに、感染症の発生や流行の兆し等の早期発見に努める。 II①②	A	A	【学校安全】 ・安全点検結果を活用し学習環境を整備する。 ・避難経路を事前に確認し、防災意識を高める。 ・ハザードマップの理解を徹底させる。 【教育相談】 ・支援を要する生徒の把握をするため、教員間の情報共有を図る。 【健康課題の解決】 ・健康診断を受ける意義など、事前に丁寧に指導する。
		清掃用具の補充や清掃分担の工夫により、安全点検を兼ねての清掃活動を徹底し、学習環境の向上に努める。 II①②	B		
		防災計画を見直し、訓練を通して防災意識の高揚を図るとともに、災害時に適切な行動を選択できる能力を育成する。 II②	B		
	教育相談の充実	教育活動の中から生徒の些細な変化や、支援を要する生徒の把握に努め、スクールカウンセラーの活用に繋げる。 II③④	B		
		教育相談に関する研修会を実施する。 II④	A		
	健康課題の解決	定期健康診断結果を速やかに生徒に通知し、自己の健康課題への取組をサポートする。また要精密検査の生徒が早期に受診・治療できるよう、定期的に面談の機会を設け、家庭との連携を強化する。 II①②	A		
		保健だよりを用いて健康教育の推進と、健康課題への気付き・解決への意識を培う。 II④	A		
特 別 活 動	帰属意識、協調性、責任感の育成	学校行事や委員会活動を通して学校への期待感を高め、愛校心を育み、学校への帰属意識の高揚へとつなげる。 II⑥	A	B	・各委員会の活動と関連付けながら、学校行事の活性化を図る。 ・歩く会は来年度の実施を見送り、新たなコースやつくばね学との関連などを検討する。 ・部活動の精選を進め、部活動の在り方について検討する。
		各種委員会を精選することで、存置した委員会の活動をさらに充実させ、委員会活動を通して、責任感・達成感・自己有用感を感じられるようにする。 II⑥	B		
	部活動への積極的な参加とその継続	部活動の地域移行について、校内会議、アンケート、研修、外部団体との意見交換を行う。 V②	B		
	生徒会活動の活性化	生徒の自主性を重視した生徒会活動推進する。 II⑥	A		
つくばね学探究 Project	つくばね学探究の充実	有機的につながる3年間のつくばね学探究プログラムの構築を目指し、既存プログラムを改善する。また、進学アドバンストコースでは、大学等での学びへつなげるよう工夫を加える。 IV①	A	A	・より効果的・効率的な運用を目指し、プログラムを検討する。 ・進学アドバンストコースでは個人及びグループで探究活動を行った。 ・探究成果発表で外部コンテストに参加した。来年度も、外部への参加や働きかけに努める。
		つくばね学探究プログラムの効果的な運営を図り、教員の負担軽減に努めるとともに、主体的・協働的な生徒の活動を促す。 IV①	A		
		外部協力機関との連携に努め、その維持・強化を図る。 IV②③④	A		
	つくばね学探究の対外的発信	つくばね学探究の活動状況を、適宜、学校ホームページ等で発信する。 IV④	B		
		つくばね学探究の成果発表のため、外部コンテスト等への参加を促す。 II⑥	A		

一 学 年	基本的な生活習慣の確立、 地域とのつながりを意識 した学校生活	家庭との連絡を密にして協力しながら、欠席・遅刻・早退を減らし基本的な生活習慣の確立を図る。 Ⅱ①②	B	A	・基本的な生活習慣の確立を図り、卒業後の進路を見据えた指導をする。 ・校外ボランティア参加率が低い。総合的な探究の時間を絡めてボランティア参加率を上昇させる。 ・T S Tでの振り返り学習が効果的であったことから、地道な学びをさらなる成長につなげる。 ・具体的な進路について考える機会を設け、調べ学習だけではなく、現地で体験することで進路意識の向上を図る。
		校内外での挨拶の励行、校外ボランティアへの参加などを通して、地域とのつながりを意識して学校生活を送れるようにする。 Ⅱ⑥	B		
		服装・頭髪指導を通して、校則を遵守する大切さに気付き、「正しい判断」ができる生徒の育成を目指す。 Ⅱ①②	A		
		生徒との面談を適宜行ったり、保護者への連絡を密に行ったりすることで生徒理解に努めるとともに、教員間での情報を共有し、問題行動等を未然に防ぐ。 Ⅱ①②④	A		
		服装・頭髪の意識改善を通して、身だしなみを正し、社会の常識を身に付けさせる。 Ⅱ①②	A		
		生徒の観察や面談等を通じて、生徒理解に努め、保護者との連絡を密にして、問題行動を事前に防ぐ。 Ⅱ①②③	A		
	個々に応じた学習指導の 充実、基礎学力の向上	「つくばサポートタイム（T S T）」を活用し、基礎学力の定着を図る。 Ⅰ①	A		
		「つくばね学探究Ⅰ」やLHRでの活動を通じて、地域との共生を目指す Ⅳ①	B		
		授業担当者との情報共有を密に行い、生徒一人一人の状況を把握し、特に学習に困難がある生徒には家庭との連絡を密にして学習習慣の定着や基礎学力の向上を目指す。 Ⅵ②	B		
		成績不振の生徒には個別に対応し、家庭とも連携しながら苦手科目の克服を目指す。 Ⅰ①	A		
	進路について自分で考える ための素地づくり	進路ガイダンスや体験学習などを実施し、進路実現に向けて個々の進路意識の育成を図る。 Ⅰ②	B		
		課外等を実施して、進学意欲の高い生徒への様々な情報を提供し、進路についての意識づけをする。 Ⅲ②③	B		
二 学 年	基本的な生活習慣を養い、落 ち着いた学校生活	家庭との連絡を密にし、遅刻・欠席の減少を中心として、基本的な生活習慣の確立を図る。 Ⅱ①	C	B	・精神面で不安定な生徒のケアや、基本的な生活習慣及びモラルの尊重に関わる指導を行う。 ・担任らの面談や声かけにより、問題行動を未然に防ぐことができた。今後も継続していく。 ・進路について考える機会が増え、主体的に授業に取り組むようになった。 ・進路決定までの道筋を
		ピアスなどの服装の意識改善を通して、マナーとモラルを尊重する生徒の育成し、マナーカード取得数の減少を目指す。 Ⅱ②	B		
		生徒との面談を適宜実施し生徒理解に努め、問題行動を未然に防ぐ。 Ⅱ③	A		
	基礎学力の向上に努め、学 習に取り組む環境づくり	課題や提出物の指導を通して、授業に主体的に取り組む態度を育成する。 Ⅰ①	B		
		学習に困難を抱える生徒に対して、家庭との連携を密にししながら基礎学力の向上を目指し、生徒の自立 Ⅱ⑤	A		
		基礎学力の向上と、生徒一人一人の進路実現を目指した授業の工夫や改善などに努める。 Ⅰ②	B		
	生徒の進路実現を目指し た学力の養成、キャリア教	進路ガイダンス、バス見学会等の進路行事や個別面談を通じて生徒に将来の目標をもたせ、望ましい勤 労観・職業観を育成し、進路意識の醸成を図る。 Ⅲ②	A		

別紙様式 2 (高)

	育の充実と地域との連携	「つくばね学探究2」を通じて、社会人として備えるべき資質・能力を育成し、自己実現や進路実現のための知識の育成を目指す。	Ⅲ①	B		生徒・保護者にわかりやすく提示していく。
		「つくばね学」を通して、地元の風土や自然を学び、地域の人とふれ合うことで、生徒のコミュニケーション能力の育成及び地域課題の発見や解決を目指す態度を育成する。	Ⅳ①	B		
	I C T教育の充実	教員間の連絡事項だけでなく、SHRや授業でも電子黒板やタブレット端末のほか、Classroom等を積極的に活用し、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。	Ⅵ①	A	A	- 電子黒板は、視聴覚教材を活用しやすい。 - SHR等の連絡事項を視覚的に伝えていく。 - 授業でタブレット端末の使用頻度を高める。
三 学 年	立派な社会の構成員となるよう基本的な生活習慣の確立	欠席・遅刻・早退について対前年比5%減を目指し、生徒に規則正しい生活習慣が身に付くように適宜指導する。	Ⅱ①	B	A	- 単にルールを守るだけでなく高校生らしい身嗜みを求める。 - 英検や漢検などの事前の対策を検討する。 - 各クラスに進路関係の本棚を置く。 - つくばね学と進路指導を関連づける。 - 進路決定後の気を引き締めるため、学校生活の重要性を説く。 - 指導の基準を学校全体で統一する。 - 学校として、規則に基づく正確な情報・決定事項を家庭に連絡できる体制を構築する。 - より早い時期から進路指導を行う。 - 授業の遅刻や欠課の扱いについて再検討する。
		頭髪・服装指導を実施し、校則を遵守する態度を育成し、徹底に努める。	Ⅱ①	B		
		スクールカウンセリング等を活用し、家庭と連携を密にするなどして、問題行動の防止に努める。	Ⅱ⑤	B		
	学校行事や学習に積極的に取り組む態度の育成	学習面では、スモールステップを大切に、日頃の授業で細かい気配りをする。また、基礎学力の向上に向けて、普段の授業への意欲を高め、楽しく感じられる工夫を实践する。	Ⅰ②	A		
		学校行事に積極的に参加させ、有意義な学校生活を送らせる。	Ⅱ⑦	A		
		資格取得を奨励するとともに、主体的・対話的活動を通じて言語力を高める。	Ⅲ③	A		
		成績不振者に対しては、家庭との連絡を密にし、進路実現や卒業を目標に支援する。	Ⅲ③	A		
	生徒一人一人の進路希望実現	総合的な探究の時間やLHR、進路ガイダンスや面接指導など、生徒の実態や希望に応じた進路計画を立てる。	Ⅲ①	A		
		課外や適性検査などを実施し、必要に応じて生徒や保護者と面談をするなどして、一人一人に合った進路指導の充実を目指す。	Ⅲ③	A		
		進路意識を高め、生徒一人一人の進路希望が達成できるよう努め、進路先決定率95%以上を目標とする。特に就職については、内定率100%の継続を目指す。	Ⅲ④	A		
		進路ガイダンス、学校説明会やオープンキャンパス、職場見学などに積極的に参加させ、進路希望の実現を目指す。	Ⅲ④	A		
		「つくばね学」と進路指導との結び付きをより密にする。そのために、日頃の実習を十分に振り返らせ、職業選択の醸成につなげる。	Ⅲ②、Ⅳ①	B		

※評価基準 A：目標が十分に達成された（達成度80%以上） B：ある程度成果が見られた（達成度60%以上） C：取り組んだ（達成度40%以上）
D：課題を残した（達成度20%以上） E：取り組むことができなかった（達成度20%未満）

